

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社ふれあい
事業所名	グループホームポインタ
所在地	鹿児島県阿久根市赤瀬川4295 (電話) 0996-73-4348
自己評価作成日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食の町阿久根で食事の提供について、利用者が食べ慣れた味を聞き取りながら、職員が手作り味噌や、季節感・郷土感のある食材を調理し、美味しく食べてもらえる様務めている。
新型コロナウイルス蔓延防止の為に難しい面もあるが、利用者と家族の良好な関係を構築できるよう、ホームと家族のコミュニケーションを大切にしている。集合しての家族会は実施できていないが、利用者の状況を手紙で家族に報告し、家族の思いを聞き取れる様務めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は阿久根駅にほど近く、国道から少し入った場所に位置し、周辺にはドラッグストアや家電量販店、医療機関やスーパー等もあり利便性のよい立地にある。

コロナ禍以前は事業所主催の敬老会に地域住民にも声を掛け参加してもらったり、保育園児との交流等、積極的に地域交流を図っていたが、現在は地域行事が中止になったり、事業所主催の行事も控える等、交流の機会は少なくなっている。そのため、コロナ収束後は利用者や家族、地域住民と触れ合う機会を持ちたいと考えている。

敷地にはキンカンや栗、すもも等、多くの果樹が植えられており、キンカン漬けや、すももゼリーにして提供されている。また、畑には四季の野菜のほか、瓜やすいか、さつま芋等も植えられ、利用者と職員が収穫を楽しんでいる。食べる楽しみを大切にしたい思いから、メニューは当日決めており、利用者の食べたいものや料理本を参考にして調理している。敬老会では以前はバイキング形式を取っていたが、コロナ感染症に配慮して仕出し弁当を取る等、普段とは違う楽しみを提供している。

理念を玄関に掲示すると共に、業務日誌である「一日の日記」にも印刷してあるため、常時理念を意識することができる。また、日々の申し送り時や研修会等で理念を振り返る機会を設ける等、理念の共有と実践につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	申し送り時に読み上げ勤務前に確認し理念に沿えるよう心掛けている。	玄関に理念を掲示するほか、業務日誌である「一日の日記」にも理念を明記し意識付を図っている。また、申し送り時や研修の際に理念を共有できているかを振り返る機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス蔓延防止の為現在交流は出来ていないが今の状況が落ち着けば交流を図れるようにしたい。	コロナ禍以前は保育園児との節分交流や地域住民も参加する事業所主催の敬老会を実施する等、積極的に関わりを持っていたが、現在は催しを中止しているため、近所の方による差し入れ等、限られたものになっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	新型コロナウイルス蔓延防止の為現在活動は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス蔓延防止の為会議は開催せず資料を送付し意見等を教えていただくようお願いしている。	コロナ感染症拡大に伴い、現在運営推進会議は開催せず、運営推進会議資料を作成し、行政や民生委員、区長等、会議のメンバーに送付するに留まっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は相談等し意見をもらい連携を図っている。	運営推進会議資料や介護関係の書類提出時に行政に出向いたり、最近ではコロナに関する内容が多いため相談事がある時はメール等を活用して助言をもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催し、禁止となる具体的な行為を確認し、ホーム内での現状を協議している。	「適正化の指針」を作り、「身体拘束等適正化委員会」を3か月毎に実施するほか、年2回、身体拘束排除や権利擁護等の研修会を年間研修計画に組み込み実施している。地域住民とはコロナ禍以前より敬老会や防災訓練等で交流していたため、万一の時は見守りや声掛けしてもらえる関係ができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で法令や虐待の現状について勉強会をして、その防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内の勉強会で、成年後見制度等の権利擁護に関する制度の知識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明書で説明し、利用料等改定時は文書で説明し理解・納得に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>新型コロナウイルス蔓延防止の為面会時等に話す機会が減っている為電話などで話や意見を聞かせてもらっている。</p>	<p>支払いに直接家族に来てもらうことで面会や意見を尋ねる機会につなげるほか、遠方の家族には手紙や電話で要望を伺っている。現在、コロナ禍で家族会を開けない代わりに、日常生活動作（ADL）を含む身体状況についての情報を年2回家族に送付し、意見や要望を汲み取り運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送り時やその都度話をして</p>	<p>朝夕の申し送り時に職員の意見を聞くほか、施設長も職員同様に夜勤をするなど日常的に密に接しているため、職員は施設長や管理者に自由に意見を伝えられる関係ができています。職員の意見により早出の時間を調整するなど速やかに対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>有休・休暇希望を反映した勤務シフトの運用。 介護職員処遇改善、ベースアップ等支援加算制度を活用した給与水準の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新型コロナの影響でリモート研修が主流になっているが、Wi-Fi環境やパソコン機材の関係で受講しておらず、最近、ケアマネ更新研修で事務所を使い受講した。今後、受講させたい。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在勉強会など交流が出来ていないのでリモート等活用しながら機会があれば参加していきたい。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人に困っている事や不安な事を聞き取る事は難しいが、実際に生活する中で早期に困っている事や不安な事を読み取りながら安心を確保する様務めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の思いを聞けるように感染防止対策をして可能な範囲でホームに来ていただき話をし関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・ご家族・担当ケアマネジャーで相談しながら選択肢を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることはお願いしたり昔の事等教えてもらったり職員も助けてもらうことが多く感謝を伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はご家族が面会制限で関わる事が難しい状況であるが、ホームとご家族とのコミュニケーションについて良好な関係を築いてゆきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はご家族も含めた面会の制限や、外出を控えている事もあり、感染状況等落ち着いたら支援に努めたい。	これまでの人間関係や馴染みの場所を本人や家族から聞き取るほか、入居前のケアマネージャーや医療機関の相談員等からも情報を収集し入居後の支援に反映させている。外出が難しい中、電話や手紙の取り次ぎにより関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内では皆さんと一緒に過ごす時間が多く分からない事を聞きあたりされ職員がさりげなく間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後相談等来られたら誠実に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はティータイムやレクの時間等に積極的に声掛けし、意向を聞き取れる様務めている。	本人が思いを上手く伝えられない場合は、声を掛けたり、介助した時の表情や仕草等から気持ちを汲み取るよう努めている。これら職員の気付きは、個人記録に記載し申し送り時等に情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前のケアマネージャー等から情報をもらい、これまでの暮らし方を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーと職員でアセスメントを共有し、日々のケアの中で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケア計画を作成し状態変化時等は職員と意見を出し合い見直しを行っている。	本人や家族の意向を基にカンファレンスやモニタリングのほか、照会文書により主治医に意見を求め、ケアプランに反映させている。また、ケアプランに加え、より詳細な「個別援助計画」も作成し、本人本位の生活を送れるよう日々のケアや支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録は細かく記入し介護計画の見直しなどに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>グループホームでは、他のサービスを活用することはコストの面で難しいが、家族と相談しながら、ホーム内で出来る支援を協議している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在地域との関りが持っていないので感染状況等見ながら支援していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望があれば、職員が同行し、入所前のかかりつけ医の受診を支援している。</p>	<p>入居前のかかりつけ医を把握し入居後も本人、家族の希望する医療機関の受診を主に職員が同行する等して支援している。受診時の情報は「受診記録」に記入し、申し送り時等に情報を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	職員は職場内の看護職員に状態変化時等報告し必要時は受診の支援を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時は病院と家族の間を繋ぎ、退院調整は退院後の利用者の身体状況について、医療連携室と情報の共有及び連携を図っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入所時から重度化や終末期についての説明や希望など話している。	入居時に「重度化した場合の意向確認」「重度化した場合における対応に係わる指針」を説明している。また、看取りについては、「看取りケアの指針」等を作成しているが、文書を取り交わすまでには至っておらず、今後、利用者や家族にとってより良い看取りができるかについて等、看取り支援や書式についても検討していきたいと考えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救急救命の対応など消防署から指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>現在地域の方に参加してもらう避難訓練が出来ていないので今後状況を見ながら協力体制を築けるよう災害対策をしていきたい。</p>	<p>年2回夜間想定を含む火災訓練を実施している。夜間は職員が一名となるが、施設長宅が隣接していることや、消防署に近いこと、また、屋外にサイレンを設け、近所に伝わる仕組みができている等、近所の方の協力が得られる体制ができている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴者が多く、大きな声での声掛けが必要であるが、本人が恥ずかしさを感じたり、落ち込む事が無い様、周囲を意識しながら声掛けの内容に注意している。	「個人情報マニュアル」を備え、権利擁護の研修を行う等、プライバシー確保に努めている。耳の遠い方が多いため、トイレ誘導の際にはさり気なく声掛けすることが難しいが、可能な限り配慮するよう努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いが聞けるよう話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるがその方の体調や気分など聞いたり考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡を見て身だしなみを気にされる方は殆どいないが、起床時に職員が櫛で髪を撫でたり、病院受診時に衣類の選択を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きメニューに取り入れたり食べやすい形態等その都度確認し美味しく食べれるよう支援している。	つわの皮むきや絹さやのすじ取り、味見等を利用者にもしてもらいながら調理している。特に献立表は作らず、利用者の食べたいものや旬の野菜を使った食事、行事食等、季節に合わせたメニューを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やティータイム等の一人一人の食事量、水分量をチェックしたり、食形態の変更等、健康状態への影響を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台に誘い口腔ケアを行い必要な支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレの声掛けなど行っている。	リハビリパンツやパットを使用している方が多いが、昼夜問わずトイレでの排泄を基本としている。夜間のパット交換のタイミングを把握するため「個別援助計画」を作成して個々の排泄パターンの理解と介助方法を検討し支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂ってもらうよう声掛け等行い主治医に相談しながら緩下剤を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているが体調や気分など見ながら時間をずらすなどの支援をしている。	週3回午前中の中入浴を基本とし、浴槽に浸かれない利用者にはシャワー浴や足浴を提供している。また、入浴したくないと言われた時は、声を掛ける時間や職員を代えて促すなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の好みの寝具を使ってもらいその日の状況に応じて休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で内容が確認できるようにし服薬時は見守りを行っている。必要時は状態を主治医に報告し指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さいことでも役割をもってもらい感謝を伝えたりテラスに出て日光浴をし気分転換をしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出支援はしておらず感染状況等見ながら支援していきたい。	コロナ禍以前は、初詣や花見、出水の鶴見物、ソーメン流しやドライブ等、積極的に外出計画を立て出かけていたが、現在は外出希望がないことやコロナ感染症予防のため、病院受診以外の外出を控えている。その代わりにテラスで日光浴を行い、畑の野菜を眺めたり、会話を楽しむ機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方はいらっしやらない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の依頼があれば取りついでいるがほとんど要望がない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度湿度計を確認し表情なども見ながら居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。共有スペースから庭を見渡せるようになっており、季節の花を眺める事が出来る開放感のあるスペースを提供している。</p>	<p>フロアの天井は高く開放的であり、木目調の床と相まって暖かな印象を受ける。テラスからは畑や果樹を眺めることができるため、四季の野菜や果物の収穫を楽しみに過ごすことができる。台所は利用者も自由に入ることができるよう開放されているほか、トイレの手すり等も十分に取り付けられている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う方同士ソファで話せるように座ってもらったり部屋に行きたい方はゆっくり休めるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はご家族の写真や自分で編んだ編み物など好みのものなど飾られている。</p>	<p>エアコンにクローゼット、電動ベッドが備えられるほか、編み物セットや愛読書等、趣味の物を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食堂・居室・トイレが見渡せ車椅子でも自分で移動して行く事が出来る様になっている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない